

# 動画教材提示での方向付けが集中度を高めることの功罪 —AD/HDの注意力向上が記憶内容を限定する可能性—

今野博信(学泉舎)

キーワード: 注意の方向付け, 障害理解, 記憶の選別

## 問題と目的

授業での教材提示には、学習目標に適った表現内容に生徒を集中させる工夫が必要になる。ところが実際には、指導意図とは別な内容に注意を向ける生徒もいる。不注意や衝動的な特性を示す注意欠如・多動性障害(AD/HD)の場合は、そうした傾向がとくに表れやすい。

対応としては、提示内容の概要を事前に説明することが考えられる。しかしこの方法には、視聴覚教材などがもっている多様で豊かな価値の受け止めを、事前の方向付けによって限定し狭めてしまう危うさも考えられる。教材提示方法の影響について指導者が自覚的である必要がある。

事前説明の有無が成績に影響する差を比較するために、動画視聴前の説明の有無で群分けをした実験を行い、教材提示方法の効果を検討することを目的とした。事前説明の仕方が、AD/HDの注意力向上につながっていくことを目指している。

## 方法

### 調査対象者

M大学3年の教職授業受講生24名(男子16名、女子8名、筆者が非常勤講師で受け持つ授業)

### 手続き

動画視聴後に、内容を問う質問に回答し、成績を比較する。12名ずつの説明有群と説明無群の2群に分割。まず説明無群が動画を視聴し、その内容を説明有群に話す。その後に説明有群が動画を視聴する。両群が質問に回答(事前)。確認の視聴をし、両群共に同じ質問回答する(事後)。

動画はAD/HDの困り感を疑似体験する内容で、複数の情報が同時提示され情報間の重要度が不確かになっている。質問は、文字認識の解説映像に関する主質問3問と、ニュース映像などに関する副質問3問であった。正答を1点とし、満点は6点。事前質問と事後質問とに分けて採点した。

個人情報保持と、結果の授業での開示、外部の発表に用いられる旨の説明を了し承を得た。

## 結果と考察

群間1(説明の有無)と群間2(質問の主副と事前事後)の3要因分散分析を行った。3要因の交互作用が有意( $F(1, 22)=8.331, p<.01$ )になった。単純・単純主効果の検討から、主質問の事前条件で

群間に、説明有群>説明無群となる成績の差が見られ、両群とも事後>事前となる成績の上昇が見られた(Figure 1 \*  $p<.05$ , \*\*\*\*  $p<.001$ )。

主質問と副質問ごとに見られた、事前条件での群間の差をFigure 2に示した(\*\*\*  $p<.005$ )。

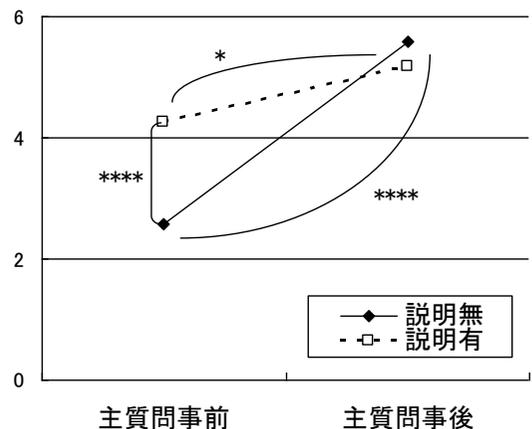


Figure 1 主質問の事前事後比較

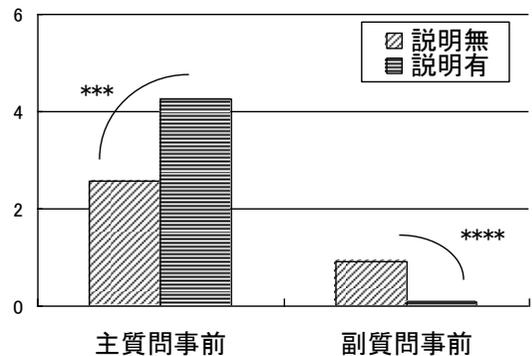


Figure 2 事前での主副質問比較

説明有群の高得点は主質問だけで、副質問では説明無群より点数は低かった。これは、視聴前に聞いた内容だけに集中したからと考えられる。事前の具体的な説明があれば、AD/HDの生徒が注意をそらしにくくなると期待できる。

一方で、説明になかった要素は視聴時に捨象されて記憶に残らない傾向が見られた。事前説明の内容を確認するだけの視聴になるのは問題である。生徒の自由で多様な受け止め方が保障されるような説明を、指導者は心がける必要がある。